

毎週火、金曜日発行(但休日になるときは翌日)
昭和四年四月十五日第三種郵便物認可

鳥取県公報

目次
◇監査公告 昭和三十一年度に係る県立中央病院並び
に県立高等看護学院の定期監査の結果公
表

監査公告

鳥取県監査公告第百七十八号

地方自治法第百九十九条の規定に基づき、昭和三十一年度
に係る県立中央病院並びに県立高等看護学院の定期監査
を執行したので、その結果を次の通り公表する。

昭和三十二年三月二十九日

鳥取県監査委員	松本利治
同	山本四郎
同	小谷善高
同	上根政幸

監査箇所 執行年月日

県立中央病院 昭和三十三年三月十五日

県立高等看護学院 同

県立中央病院 昭和三十三年三月十五日監査

監査委員	松本利治
同	山本四郎
同	小谷善高
同	上根政幸

一 本年度病院事業の収支状況は、(拡充費を除く)二
月末現在、収入済額四千七百二十四円余円に対し支出
済額は五千一百五十六万六千四百三十二円余円
支出超過となつてゐる。また調定額は六千一百五十九
万九千四百円を前年同期に比較すると六百三十九万九
千四百円増加している。

更にこの調定額をもとに本年度収支決算見込を検討す
れば三月分病院収入五百十五万九千四百円、その他旧医療団
還付金等一百五十五万九千四百円が見込まれるので最終調定見込

額六千七百七十九万円で、これが収入見込額は六千四百九十九万円で予定されている。反面支出面では、人件費等義務的経費二百七十二万余円、その他需要経費四百二十九万円で計七百十余万円見込まれているのでこれを差引考慮すれば、単年度で六百十余万円の剰余見込であるがこのほか火災復興分の公債費九百五十万余円の償還があるのでこれを控除すれば三百十余万円の歳入不起を生ずる見込であつて、必らずしも経営状態は樂觀を許せない状況である。

二 医療関係職員の確保について。

普通病床五十床（県費）と地方職員共済組合結核病床五十床の併設工事が現在施行されているので三十二年度からは、本格的適正規模による病院経営の段階に入ることとなるが、これに必要な医師二名、現在欠員中の医師四名併せて六名の充足を要することとなる、これら職員の確保は待遇その他の面で容易ならざることが思考せられるので、少くとも給与その他間接的待遇改善も考慮し優秀職員の誘致、確保に最善の努力をす

るとともに一般人事管理について一層の万全を期せられたい。

三 公的医療機関として施設設備の充実整備については

特に配意し前記病床の拡充とともに更に本年度は、旧医療団からの還付金を得て医療機械器具の整備に努める一方、経営管理部門では病院経理内容の分析検討並びに医療材料の集中管理、中央カルテ制度の採用による日報、伝票式による計数的管理等に改善を加え管理業務の計画的遂行に資しているがこれによつて生じた余力を更に医療並びに患者サービスの面に集中し効率的使用に格段の配意が必要である。

また、病院経理内容の分析は昨年十月を対象に行い、該当月における管理部門の実態はあくに努めているが、内容分析及び原価計算の基礎等に未だ留意検討の余地があるので、かかる分析検討は随時実施を重ね年間を通じての実態をあくし経営上の不備欠陥を探究するとともにこれらの是正策を講じもつて病院企業健全運営に資すべきである。

四 既述した如く経営管理面に遂次改善がなされ事務、

事業の簡素、合理化に努めているが更には、各医局と事務部局との間における相互連絡並びに調整、内部けん制組織の合理化、適確なる収支計画の樹立、並びに予算の執行、医薬品等衛生材料購入取得、並びに保管出納、給食事務の処理等現行制度に再検討の余地が認められるので、これらの点につき慎重検討の上適切なる改善措置を講ずることが必要である。

県立高等看護学院
昭和三十一年三月十五日監査

監査委員 松本利治

同 小 谷 善 高

同
上
根
政
幸

同
山
本
四
郎

監
查
概
況

一 本学院の人的組織その他運営上の問題については、毎回の監査で指摘したところであるがなお専任事務員の充足、教材の整備、院内施設で習得できない教養科

目の施設整備その他実習上の隘路等措置改善を要する問題が多く残されているので、早急整備改善に努められたい。

二 教育については年間計画と更に詳細綿密な計画を樹

てて専任教員三名の外院内講師二十三名、院外講師十
四名でこれに當つてゐるが、特に院内講師は少くしか
も病院事務に忙殺されるため勢ひ負担が過重となり従
つて欠講となる場合もあり、予定通り進み難い実状で
ある。

最近次第に欠講は少くなりつつあるが、更に教育計画に工夫検討を加えると共に、講師の援助をも懇請し円滑な運営に努められたい。

三 本学院は開設以来年が浅く、本年度第一回卒業生十

二名を送り出すことになるが、学院の消長は向後二、三年におけるこれら卒業生の資格取得等その成績にかつており、その点現在最も重要な時機に当面しているものと思考されるので、充分留意の上施設その他運営上のあらゆる隘路を克服して、教育については一層

